



当院小児科に御紹介いただいた入院症例のまとめ

～ 指宿医療センター小児科でどこまでできるか？ について ～

指宿症例検討会

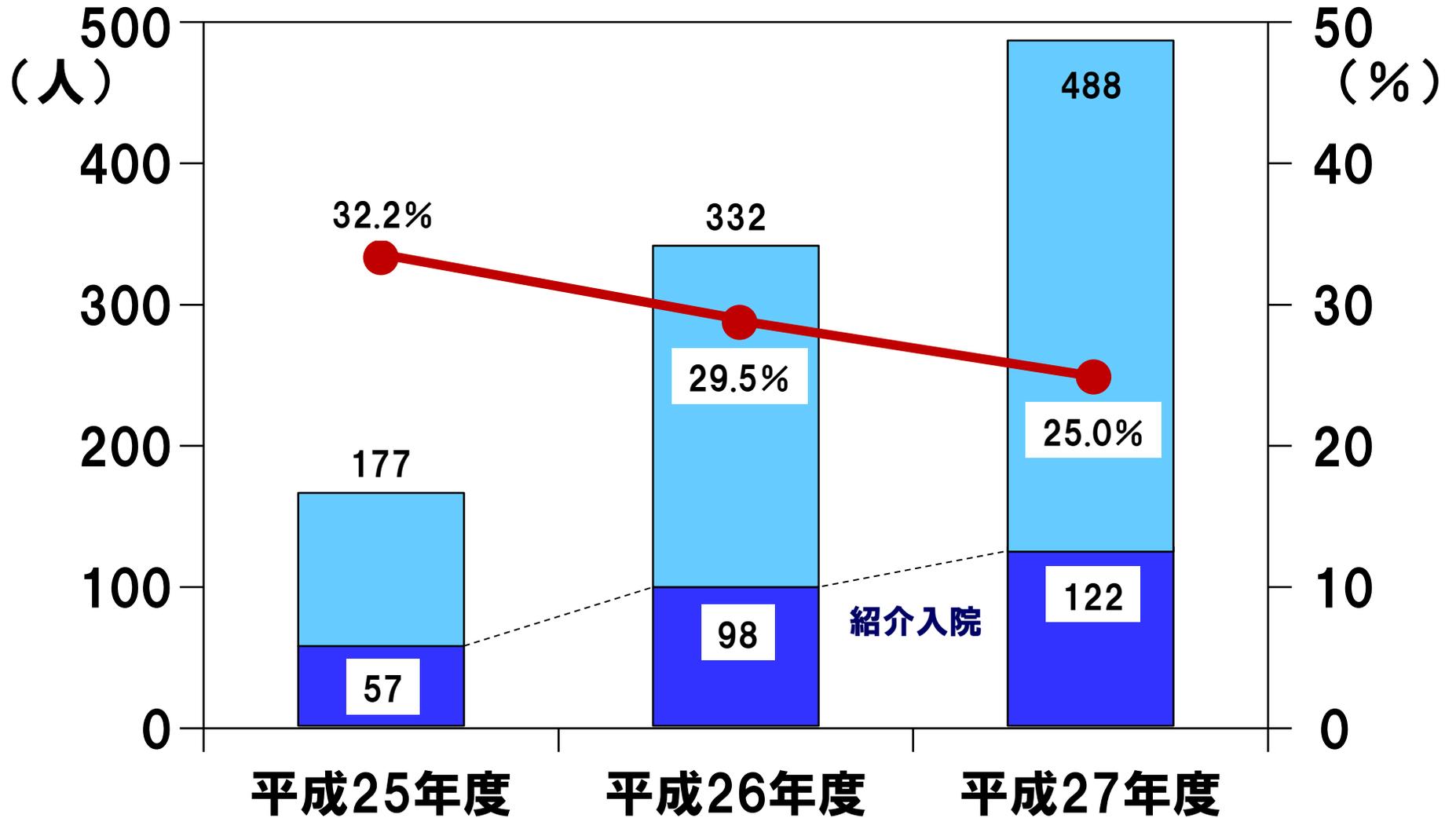
2016年5月10日（火）

指宿医療センター小児科

相星壮吾、荒武真司、熊本俊則

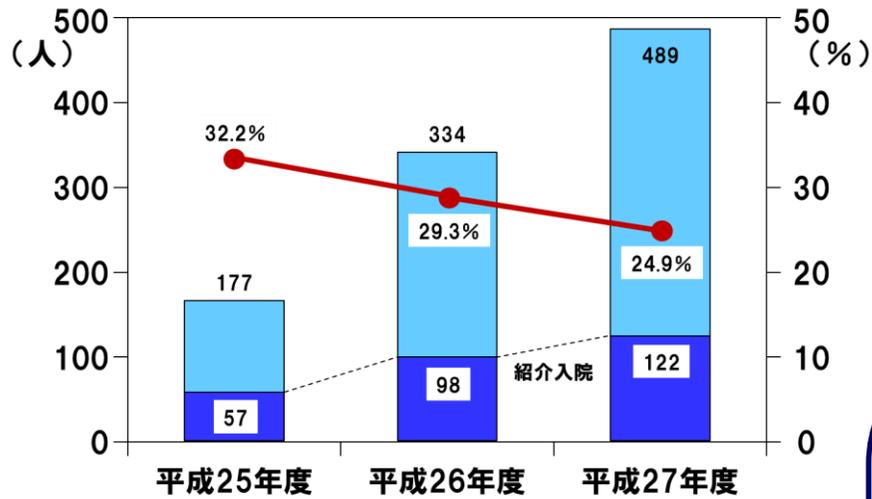


ここ3年間の入院症例数・紹介数(率)の推移





どうして入院数・紹介入院数が増えたのか？



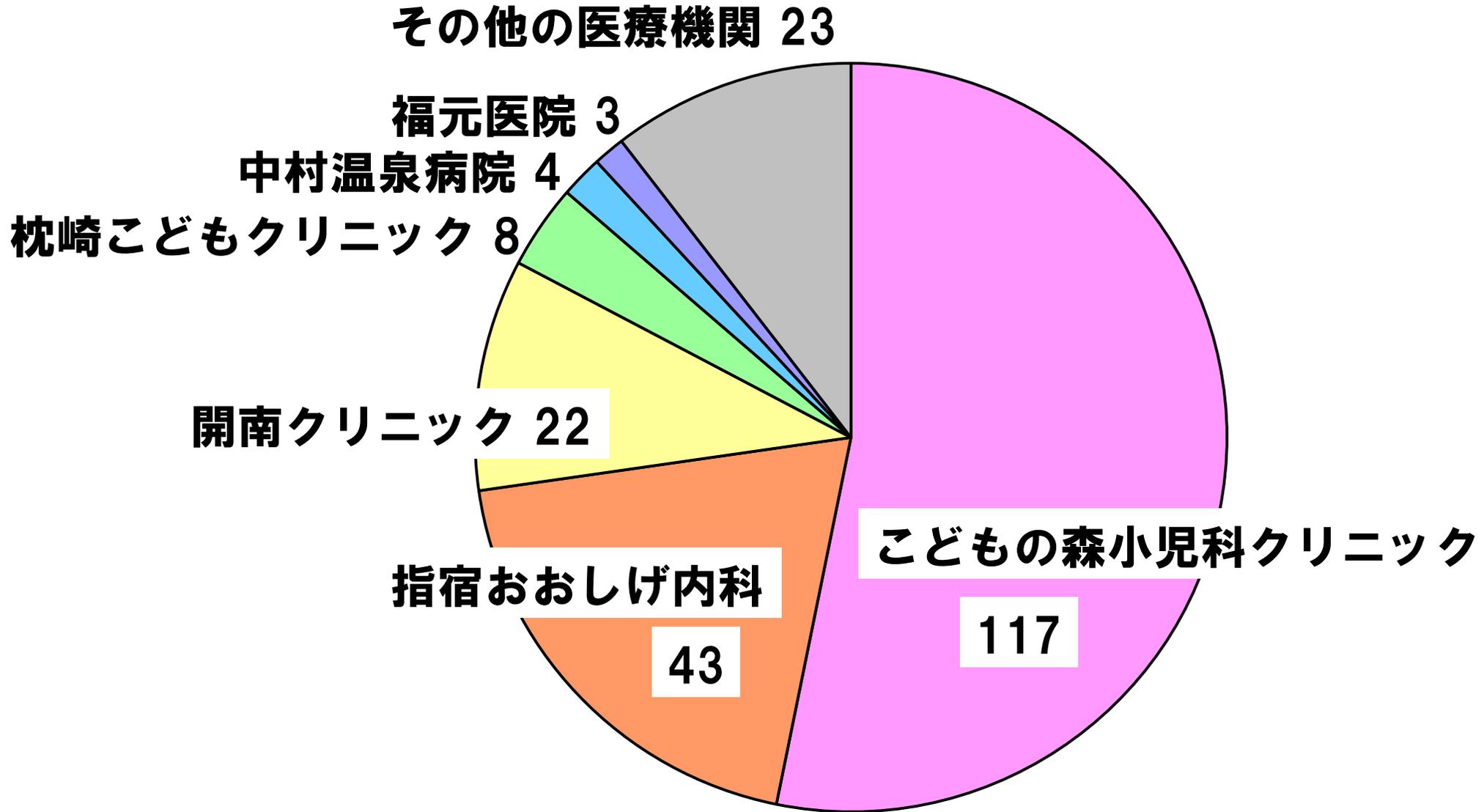
次のような理由が考えられます。

- 感染症流行の規模が大きかった
- 他地域への流出が少なくなった
- より軽症例の入院が多くなった

しかし、この他にも様々な要因があり、特定することはできません。



紹介元医療機関別入院数 (平成26・27年度、220例)





疾患群別紹介入院数（平成26・27年度、220例）

疾患群等	入院数	割合	主な疾患等
感染症	171	77.9%	
呼吸器感染症	125	(56.9%)	RSV、肺炎、マイコプラズマ など
消化器感染症	34	(15.5%)	感染性胃腸炎、腸炎 など
その他の感染症	12	(5.5%)	リンパ節炎、皮膚感染 など
アレルギー	21	9.5%	気管支喘息、多形紅斑 など
神経	8	3.6%	熱性痙攣、てんかん など
消化器	8	3.6%	腸重積 など
川崎病	6	2.7%	
その他	6	2.7%	周期性嘔吐症、熱中症 など

※ 紹介症例以外（当院外来からの入院）を含む全入院症例においても疾患群別割合はほぼ同じです。



当院小児科で完結できなかった紹介入院症例

年齢	性別	疾患群	疾患名	内容（転院先への依頼事項）
■歳	■	感染症	腸炎	溶血性尿毒症症候群を発症 （人工透析の適応の判断と実施）
■歳	■	感染症	頸部膿瘍	骨髄炎を発症した疑い （外科的処置の適応の判断と実施）
■歳	■	消化器	腸重積	空気高圧浣腸による整復が困難 （外科的処置の適応の判断と実施）
■歳	■	感染症	肺炎	呼吸不全を合併 （呼吸管理の適応の判断と実施）
■歳	■	川崎病		γグロブリン＋ステロイド無効 （血漿交換の適応の判断と実施）

※ 小児内科の第三次医療対象症例および小児外科対象疾患については
鹿児島大学病院や鹿児島市立病院に転院していただいております。



参考：紹介入院症例以外の転院症例

年齢	疾患群	疾患名	依頼内容
■歳	新生児呼吸障害	呼吸窮迫症候群	新生児集中治療室における治療
■歳	新生児呼吸障害	呼吸窮迫症候群	新生児集中治療室における治療
■歳	新生児呼吸障害	呼吸窮迫症候群	新生児集中治療室における治療
■歳	新生児呼吸障害	胎便吸引症候群	新生児集中治療室における治療
■歳	新生児呼吸障害	先天性横隔膜ヘルニア	新生児集中治療室における治療
■歳	新生児奇形	先天性消化管狭窄疑い	新生児集中治療室における治療
■歳	新生児出血性疾患	クモ膜下出血疑い	新生児集中治療室における治療
■歳	神経	急性硬膜下血腫	手術（脳神経外科）
■歳	神経	右脳内出血	手術（脳神経外科）
■歳	消化器	腸重積	外科的処置の適応の判断と実施
■歳	感染症（脳神経）	急性脳炎（発達退行）	原因精査と集中療
■歳	精神・発達	神経性食思不振症	心療内科専門機関における治療



当院で完結できないと考えている小児医療

- ① 新生児の三次医療（NICU管理が必要である症例）
（例）人工呼吸器管理が必要であるまたはその恐れがある症例
 - ② 小児期の三次医療
（例）人工呼吸器管理が必要であるまたはその恐れがある症例
ICU管理が必要である症例（脳炎、重度熱傷など）
血液・悪性疾患の急性期・活動期にある症例
特殊な処置が必要である症例（透析、血漿交換など）
 - ③ 新生児・小児外科、脳神経外科、整形外科的処置が必要な症例
 - ④ 児童精神科による医療が必要である症例
（例）カウンセリング、行動療法、向精神薬の使用など
- ※ 上記に該当する症例につきましても、御連絡・御紹介いただきましたら当院小児科にてコーディネートさせていただきます。

お す び

- かねてより、当院小児科に貴重な症例を適時適切に御紹介くださり、まことにありがとうございます。
- 当院小児科は、南薩地区で唯一の小児科二次医療機関として、与えられた役割を果たして参る所存でございますので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。